



# Hand in Hand

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚——それは旅の半ばの一つの出来事。  
新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。  
ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし支えあう女たちの、流木である。

Vol.252

## 「母子と寡婦 女性の就労を支援する」

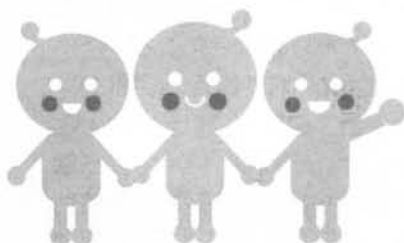
身近なネットワークの構築と活用で 脱・貧困！



黒武者 キミ子 (くろむしゃ きみこ)

1917年 鹿児島県薩摩川内市入来町生まれ。県子師範学校卒業後、川内小学校勤務。39年 結婚し兵庫県へ。娘2人出産後に夫を亡くし、故郷・入来町で教職に復職。55年 脊椎カリエス発病、10年間の療養生活を送る。65年 入来町地域婦人会会長就任、01年 全国母子寡婦福祉団体協議会会長就任、06年 鹿児島県母子寡婦福祉連合会理事長退任、現在 顧問。半生を婦人会、母子寡婦福祉会活動に捧げ、母子家庭の相談相手を務める。

●77年「昭和に生きた入来の母たち」南日本新聞出版文化賞受賞。96年 勲五等瑞宝章受章。07年 その半生と活動の思い出を綴った随筆集「無限の藍」発行。



「子どもHAPPY化計画」展開中

円 ごぶさたしています。93歳になられたとのこと、お元気ですね。

黒武者 初めてお目にかかったのは2002年11月、母子寡婦福祉法等改正法案の審議の際に、参考人として国会に招致されたときでした。全国母子寡婦福祉団体協議会[\*1]の会長だったときのことです。

円 あときは厚生労働省が児童扶養手当の削減をすでに決めていたので、野党だった民主党は「ひとり親家庭等自立支援ワーキングチーム」を立ち上げ、私が座長として交渉を重ねて、実効性ある就労保障や、養育費の履行確保制度の検討、住宅支援などの附帯決議を勝ち取ったんです。

黒武者 その後、札幌母子寡婦連合会主催の大会に列席して、食事からカラオケまでご一緒しましたね(笑)。

円 いろんなお話をさせていただいて、とても考え方が柔軟な方だなと感動しました。母子家庭といっても、死別と離別では垣根や偏見があった頃に、未婚の母までも視野に入れていらした。いろんな人たちをまとめて、それぞれに力を発揮してもらうには、黒武者さんのようにすべてを受け入れられるリーダーでなければならぬんだと感じ入りました。



円 より子 (まどか よりこ)

●1947年 神奈川県生まれ。津田塾大学英文科卒業後、ジャパントナイズ編集局勤務を経て、フリージャーナリスト・作家。93年、参院選に繰り上げ当選し、現在3期目(全国比例区)。この夏、4期目の改選に挑戦。民主党副代表、「次の内閣」財務大臣、参議院財政金融委員長などを歴任。現在、参議院財政金融委員会筆頭理事、両院議員総会会長代理、民主党参議院議員副会長。

●女性と家族の問題に取り組み、「女性のための政治スクール」、「ハンド・イン・ハンドの会」(母子家庭の母親の支援ネットワーク)、「離婚110番」(無料電話相談)などのボランティア活動を続ける。

●「主婦症候群」(ちくま文庫)、「女と通貨と政治文化」(第一法規)、「一人でも変えられる」(日本評論社)など、著書30冊以上。



●Hand in Hand 第252号 【発行日】2010年5月1日 【発行人】ハンド・イン・ハンドの会(代表 円より子)  
【編集スタッフ】向井通江 満木葉子 藤岡郁子 【事務局スタッフ】長島千春 倉林佐也子  
【連絡先】株式会社現代家族問題研究所内 〒102-0082 千代田区一番町4-42-6F TEL: 03-3261-1835 FAX: 03-3261-1836  
■http://www.madoka-yoriko.jp/ http://www.gendai-kazoku.jp/ info@gendai-kazoku.jp

「離婚と母子の110番」 Tel.03-3261-1835 毎土曜:13~17時(詳細は8面参照)

## 一生懸命、ひたむきに生きる

円 黒武者さんが歩んでいらした道について、少しお聞かせください。とても珍しいお名前ですね。

黒武者 鹿児島県の片田舎の集落名が苗字で、700年前から代々続いた農家でした。子どもの頃は、わがままなお転婆娘でしたよ(笑)。

円 半生をつづられた著書「無限の藍」を読ませていただきましたが、ご両親がすばらしい方でしたね。戦前の、女の子は女学校を出たら結婚するのがふつうという時代に、5年間の寄宿舎生活をさせて女子師範学校に行かせてくださいました。

黒武者 両親とも無学でしたけれど、子どもの教育には熱心でした。母は婦人会活動が好きで、その指導者の学校の女先生に憧れて、私に師範学校の受験を勧めたんです。

円 女性もきちんと仕事を持って、自立しなさいと？

黒武者 いいえ、鹿児島は封建的な土地柄でしたから、当時は女が仕事をして自立するという発想は母にも私にもありませんでした。母は憧れから、どうしても私を女先生にしたかったんですね(笑)。でも、結果的にそれが後の自立につながりました。

円 終戦の年の秋、28歳のときにご主人が結核で亡くされました。

黒武者 ええ。食糧難の時代でもありましたし、2人の娘と実家に身を寄せて、兄も弟も亡くなったために黒武者姓に復籍しました。'47(昭22)年に両親の反対を押し切って教職に復職したのが、自分の進む道を自分で決めた最初です。第二の人生の始まりと言えるかもしれません。

円 戦前と戦後では、ずいぶんと価値観が変わったでしょう。

黒武者 教育も社会も180度転換したときですからね。学校現場の仕事だけでなく、婦人部の仕事へも携わって、全力を注ぐことで、夫を亡くした悲しみから立ち直って生きる望みを見出したのだと思います。

円 婦人部のお仕事とは？

黒武者 女教師研修会というのがあって、「お茶汲みを女の先生だけがするのはおかしい」とか、産休補助教員制度実現の運動とか、婦人校長・教頭の誕生を働きかけたり、共稼ぎの女教師への退職勧告に対する反対運動もやりました。男性には、その妻に対する扶養家族手当がありました。子守りを頼んで勤める私にはなかったのです。

円 婦人運動の先駆けですね。

黒武者 もともと何でも一生懸命、ひたむきになる方なんです。子守を頼み、両親が子どもの面倒を見てくれたとはいえ、子連れで家庭と仕事を両立させ、おまけに婦人部の仕事にまで携わったので、過労がもて



38歳の冬に脊椎カリエスで倒れてしまって……大学病院でギブスベッドに入り、仰向けに寝たままで絶対安静を3年、退院して家で5年続け、闘病生活は10年に及びました。

円 お辛かったですよね。

黒武者 でも、それなりの楽しみもありましてね。書くことが好きだったので、入来町婦人会の会報「おとずれ」や「生活の記録」へ、せっせと投稿して採用され、それがきっかけで病院のベッド上でラジオの取材を受けたりもしました。起き上がったようになった48歳のときに福岡で次女の短大卒業式があり、コルセットをつけて出席したら、私が元気になったという噂が町中に広がって、帰ってきたら入来町大馬越校区の婦

人会長に選出されていきました。これが私の第三の人生の出発です。

## 偏見をはねのけ 入来の母たちと活動に燃える

円 その後は、ほとんどボランティアで婦人や母子家庭のための活動を続けて来られています。当時の婦人会活動内容はどのようなことを？

黒武者 ちょうど'75(昭50)年が国際婦人年で、世界中の女性がメキシコに集まって「平和、平等、発展」について協議し、「女子差別撤廃条約」の決議が行われました。日本もこれを批准して、相続法や戸籍法が改正され、「男女雇用機会均等法」ができました。これを契機に、地域の女性たち、入来の母たちが何を考え、歴史の流れの中でどう生きてきたのかの足跡を残したいと思って、昭和になってからの生活の手記を募集したんです。

円 それをまとめたのが、入来町婦人連絡協議会編「昭和に生きた入来の母たち」という本ですね。

黒武者 私の文章も何編かと、初めて詠んだ短歌の「村守り 子も飢えさせずひたむきに 昭和に生きし入来の母ら」が載っていて、第3回南日本新聞社出版文化賞をいただきました。この頃、入来町内の各種婦人団体が手をつないで婦人団体連絡協議会が結成され、婦人の模擬町会議を開いたりもしたものです。

円 平行して母子会のお役もなさっていたんですね。

黒武者 婦人会長になって直に入来町母子寡婦福祉会会長にと乞われ、翌'68(昭43)年には薩摩郡母子寡婦福祉会会長に就任しました。九州地区の大会へ参加したら、他県の方が「私の県では母子家庭の医療費を無料にする制度ができた」とか、いろいろと活動されているのに驚いて、母子会と言うのはすごい会だなあと思いました。それで、帰ってから勉強して働きかけ、母子家庭医療費助成制度が鹿児島県で初めて入来町で

実現したんです。そうしたら、それに刺激を受けて県内の母子会の方々が立ち上がって、活動が広がっていきましてね。その後も、全国の母子会……当時は未亡人会と言っていましたが、その指導者研修会に東京へも出向きました。芝の増上寺会館で雑魚寝の合宿でしたが、先進県の方たちのお話が非常に刺激となって、その後、それまで細々と行っていた活動が一気にはじめて広がっていったように思います。

円 いま、未亡人会とおっしゃいましたが……。

黒武者 そもそも母子会は、戦争未亡人の方々が立ち上げたんですね。戦後の混乱と窮乏の中で、精神的にも経済的にも極めて困難な状態におかれていた母子家庭の福祉の向上と生活の安定が目的でした。細々と内職などをして暮らし、総会もみんなでお寺にお位牌を持って集まってご供養をあげてもらう、そんな形からスタートしたんです。当時は死別母子世帯がほとんどでしたが、この間に時代は大きく変わって、離婚や未婚の母による生別母子世帯が、いまかなり増えてきています。

円 厚労省の資料によると、'52（昭27）年の母子世帯数は694,660。うち、ほとんどが死別で590,900。離別はその1割以下で52,420、未婚の母は11,240でした。それが、いまや8割が離婚による生別世帯になっています。

黒武者 昔は、離婚した人は実家に戻っても肩身の狭い思いをして、親も本人も離婚のことは黙っていたのがふつうでした。社会全体が離婚にすごく偏見を持っていたから。そんな中で、'75（昭50）年頃に、入来の一ひりの女性が自分の離婚を本の中で公表したんです。新聞などの取材が殺到してパッと話が広がってね。それを読んで、同じような境遇の方々がとても元気になったんです。若い方が母子会にたくさん入ってもこられました。

円 相当に勇気がある行動だったと

思いますよ。私がニコニコ離婚講座を始めた'79（昭54）年頃でも、東京ですら離婚する人は人格欠損者のように思われていましたからね。久米宏さんのテレビ番組で、私を含め4人の女性が「社会的、経済的にどんなに大変か」と母子家庭の実情を話したら、離婚女性がテレビで顔を出して堂々と話すのは初めてだ、と言われましたから。

黒武者 彼女はまた、「死別の人は子どもにお父さんは立派な人だったと教えられるけれど、いろんな事情があって離婚した私たちは、子どもにその理由を聞かれたらなんと言おう」などという悩みも積極的に語ったので、それまで会の中にあった死別と



生別の垣根のようなものがなくなって、互いにオープンに相談しあえる雰囲気生まれました。そして「私は母子会と再婚しました」なんて公に発言するものですから、ますます会が元気になって……。

やはり、実体験を語ることが一番人の心を打つんですね。後の集いで未婚の母に講師になってもらったときも、「離婚したとき妊娠していて、親の勧めで堕胎したことを後悔している」「私は生んだ」などと、本音で活発な意見が交わされましたから。

円 実際にそういう人たちの話を直に聞けば、社会的な偏見や差別がいかにかたくなことがわかるんです。そういう機会が増えれば、世の中は変わっていくと思いますね。

## 「貧困」と「就労」が 母子家庭の2大テーマ

黒武者 いま、母子会には、子育てが終わった寡婦が増えています。子どもさえ育てておけば老後は心配ないという時代から、寡婦も老後の自立を考えなければならない時代になりました。でも、たいていの母子家庭の母親は正規職についてきていませんから、無年金かごく少額の年金しかもらえず、安心して老後を暮らせないという状況です。

円 日々の生活に追われてきて、貯金も家もない方が多いですね。みんな一生懸命に努力して、働いて自立したいと願っているのに、なかなか底辺から抜け出せずに、経済的に貧窮しているのが実情です。母子家庭の「貧困」と「就労」の問題に真剣に取り組んで、母子家庭の段階だけでなく、子育て後も安心して老後を暮らせるような状況に持っていかなければなりません。

黒武者 私はいま、デイサービスに通っていますが、寡婦の方はあまり見かけませんね。自己負担額が払えなくて利用できないか、高齢で身体が辛くても、まだ働いている人も多いのではないのでしょうか。

円 17年間、国会議員として母子家庭の問題解決に取り組んできましたが、行き着いたのは「女性全体の雇用をよくしなければならない」ということです。すべての女性がまともに働けて、子育ての間は休めて、また元の仕事に戻れるか再就職でき、正規も非正規も同じ労働条件で、年金もきちんともらえる。そういう社会になれば、たまたま離婚したとしても、未婚の母になっても、老後も含めて経済的にそれほど困らずにすむわけです。ただ、これを社会的に整えるにはまだちょっと時間がかかるので、まずは早急に、いま母子家庭で子育てまっ最中のお母さんが正規雇用されるか在宅で安定した仕事ができ、安心して子どもと接して暮らしていけるようにしたい。それ



が政権党の使命だと考えています。

**黒武者** 母子寡婦福祉団体では、地方公共団体からの受託事業として技能習得講習会を実施していて、ホームヘルパー2級の資格講習やIT講習などは人気が高いのですが、必ずしも母子家庭の母の雇用には結びつかない状況にあるようです。

**円** 母子家庭への就労支援を実のあるものにするには、“母子家庭の母などの福祉団体やNPOへの国や地方自治体などの公共機関等の優先発注”や“母子家庭の母親等の一定の雇用率の義務づけ”を行えるような法整備が必要です。これに尽力した企業には法人税を下げるなど恩恵をつけることも視野に入れて……。

**黒武者** 法律ができるまでのタイムラグ期間にも、セーフティネットは必要ですね。子ども手当の支給は母子家庭にとってはありがたいことですが、一方で就労への自助努力と、それを支える行政の実効性ある支援も必要でしょう。

**円** たとえばいま行政のスリム化が必要とされていて、地方自治体の仕事の採算性がない部分は外注したほうがコストが安くすむんです。その部分の仕事の必須技能を持つ人を母子寡婦福祉団体などが育てれば受注は可能ですし、その種の仕事がきちんとできると認証されれば役所以外からも仕事がやってくる構図を描くことが可能になります。

**黒武者** 福祉畑ではどうなんでしょう。保育施設や老人施設で、母子家庭の仕事の枠が取れないものでしょうか。

**円** 離婚女性から「舅も姑も自分の親も介護してきたので、資格は持っていないくても、お年寄りに感謝されるきめ細かい介護ができる自信がある」という話を聞いて、有資格者でなくてもできる仕事があることに気づかされました。もちろん介護サービスの一定の質を保つには、専門職として資格があるのがベストですが、福祉畑の中に隙間を作って働ける環境を作り、そこで経験を積むことが

資格取得につながっていく、そんな形もありだと思います。

子どもの世界も、保育サポーターのような補助的な役割を制度として位置づけて、その仕事をする中で保育士の資格を取れるようにして次の担い手を作っていくという枠作りが必要です。そこに母子家庭のお母さんたちが入り込める形が作れないものかと考えています。なかなか壁は厚いのですが……。

**黒武者** いまある形を変えて壁を崩すのは、一朝一夕では行きませんかからね。私なども熱心に母子会の活動をしていたら、福祉事務所の男性職員に「会長たちが熱心に母子家庭の福祉向上のために頑張るから、まず



まず離婚が増える」などと言われた、笑えない経験がありますから。

**円** 母子家庭の現状は、表面を見ているだけではわかりませんかからね。「子どもが小さくて働けない」と言う「預ければいい」と言われますが、時給7～800円で働いているのに、1時間1,500円のところに預けられるわけがありません。厚生労働省にしても、母子家庭への就労支援情報を日経新聞で告知したりするんです。母子家庭で経済的に困っていたら、まず新聞は取らないし、中でも購読料の高い日経は取らないということがわからない。一事が万事、想像力が足りないんです。

**黒武者** 行政に、特に市町村の窓口にはきちんと話を受け止めてくれる人がいると、必要な情報がキャッチできますし、ネットワークがつながって、世界が広がるんですけれどね。

**円** 母子福祉資金貸付金にしても、ただ貸すだけで、後のフォローや返済していくためのサポートがありま

せん。だから、経済が悪化して失業したりすると返せなくなるのはあたりまえなんです。取立てとなると職場にバンバン電話をかけてきたりするんです。マイクロファイナンス [※2] のように、女性を仕事ができるように教育し、なおかつお金を貸して、その後の起業や就労のフォローもしていくというようなプログラムが必要だと思いますね。

## 生活圏内で リーダー養成とネットワークづくりを

**円** 政治家だけが走っても細部に血が通わない制度になりやすいので、下から当事者が声を上げて初めて行政が動くという形が理想だと思います。その意味で、母子寡婦福祉団体協議会のように、母子家庭の運動を支えて声を大きくあげてくださるようなグループに、さらに力をつけていただきたいと思っています。

**黒武者** たとえば'59（昭34）年の国民年金法では、死別だけにしか母子年金が出ないとなっていたのを、九州地区の母子会が一丸となって「生別も死別も子育ての苦労に違いはない」と一生懸命に署名を集め、粘り強く陳情に通って、'61（昭36）年の児童扶養手当法成立の際には生別へも支給されることになりました。ああいうパワーが、もっと欲しいですね。いまは会員も高齢化して、若い方がなかなか入ってきません。ある種の過渡期かもしれません。

**円** 私が代表を務めるハンド・イン・ハンドの会も、児童扶養手当の高卒までの引き上げなどに署名を集めたり、面接交渉や養育費の取り決めなどに力を入れ、活発な時代がありましたが、いま少し元気がありません。

**黒武者** ただ「会に入りなさい」と言うだけでは、水を飲みたい馬に無理強いをするようなもの。飲みたい馬によい水、飲みたくなる水を用意するのが大切ですからね。たとえば若い人がインターネットで自分に必要な施策などを探して、たまた

ま会に行き当たった際に、中を覗いたら魅力的なメニューが揃っていたというようなことが必要でしょうね。

**円** ハンドの会に出たら元気がもらえたという方が多かったのですが、「元気の素」を具体化して、活性化することが必要ですね。

**黒武者** どこに行けば自分と同じような人に出会えて仲間が作れるか、知らない人が多いし、行政も情報を持っていないように思います。

**円** 若い母子家庭のお母さんは生活に必死で、忙しくて時間もないでしょうから、わざわざ遠くまで出かけて参加するような活動は難しいかもしれませんね。まずはインターネットや携帯サイトのような電子媒体で当事者の声や役立つ情報を発信し、それに興味や魅力を感じてもらえたら、実際に会や活動に参加しようと言う気になるのかもしれません。

**黒武者** 全国や県という大きな範囲へ呼びかけるのではなくて、身近な地域でネットワークをつくるのが大切です。私はまず、入来町の人たちに声をかけるところから始めました。

**円** 職業訓練をするにしても、悩みを語り合える仲間に出会うにしても、自分の生活圏の中で集まれるのが一番効果的です。からね。「実は知人のところで人を探しているんだけど」みたいな情報がすぐに伝わるようなグループが、身近な地域ごとにできるとよいと思います。

**黒武者** どのようにして、それを仕掛けていくかですね。入来町では、若い母子の集まりの「若星会」に5万円の予算を組んで、「お食事会でもなんにでも自由に使いなさい」と言っています。寡婦と母子では必要な情報も悩みも違いますからね。自主性に任せた方が、若いパワーが生かせるようです。

**円** そこで核となるリーダーが重要ですね。人をまとめて、話を進めて、引っ張っていけるような……。同じ境遇で共感を持てる人たちにつながりができて、その力を寄せ集めると物事がよい方向に動き出したりしま

す。地域ごとにリーダーを養成して、補助金などをつけて「ひとり親支援特区」のようなものを作れると、拡がりが生まれるかもしれません。

**黒武者** 手記や作文を募って文集などをつくるのも、行政のヒントになるような要望や声が拾えたりもしますし、そこから大きなパワーが生まれる可能性もあります。

## 地域の知恵を持ち寄って 母と子の波止場をつくる

**円** 母子家庭のお母さんにとっては、子どもの問題は、とても大きくて重要なテーマです。

**黒武者** 日々の生活と仕事で疲れ果てているお母さんをサポートできる仕組みがあるとよいですね。

**円** たとえば「レスパイトケア（子育てに疲れている親を休息させるために預る）」や「トワイライトステイ（夜間に預る）」を使いやすくすれば、お母さんは肉体的にも精神的にもすごく助かると思います。子どもにも、何かあった時に身を寄せられる波止場がいくつかできますし。

**黒武者** 子どもの校区内にその家庭があるのが望ましいですから、やはり「身近な地域でのネットワーク」というのがキーワードになりますね。

**円** 里親登録していても、里子を委託されていない家庭が多いので、地域の登録家庭を中心にネットワークをつくり、週末や緊急時に食事代くらしを支払って子どもを預ってもらえる仕組みができればと考えています。制度的にはショートステイ事業がすでにあるんですが、まだ施設でしか受け皿がありませんから。

母子家庭のお母さんは、子どもを預ける先がなく、病氣入院をがまんすることもあるほどです。大阪ハンドの会で、入院が必要になった会員の小学生のお子さんを近所の会員が預って、そこから通学させたという話を聞きました。そういう助け合いがあると助かるし、子どもも見知っている人の家だと安心できます。

お母さんのストレス軽減という意味でも、地域の連携ができて子どもに目が行き届くという意味でも、児童虐待のリスクを回避できる、ひとつの方策にもなるかもしれません。

※

**円** 今日はありがとうございました。いくつになられても国や社会のことを心配し、鹿児島母子会の顧問としても現役で活動なさっているのが、長寿で元気の秘訣なんでしょうね。

**黒武者** 政治には関わりたくないという女性も多いですが、政治とできるだけ関わりを持たないことには自分たちの声も要望も届きません。特に母子会のように弱い立場のものは与党との連携が大切で、その意味でこれからの民主党政権と、先生のご活躍に期待し、応援しています。

**円** どうぞいつまでもお元気で、今後ともお知恵をお貸しくださいね。

### 【\*1】全国母子寡婦福祉団体協議会

各都道府県及び指定都市に所在する母子福祉団体（加盟数56）の連絡協議機関として、全国の母子家庭及び寡婦の福祉の増進を図ることを目的とした厚生労働省所管の特例民法法人。財団法人として今年で56年を迎える。

無料法律相談、託児付きの就業支援講習、親子レクリエーション等の実施、母子家庭等に対する施策事業の受託、母子家庭等就業・自立支援センター事業、職業紹介事業などを実施。

### 【\*2】マイクロファイナンス

貧困者向けの「小口（マイクロ）融資（ファイナンス）」」。開発途上国では、借入能力の低い人々への融資がなかなかつかず、それゆえに新規事業を起し貧困を逃れることができない状況があった。貧困者にお金を貸すことで自立をサポートし、貧困の削減という社会的課題解決に貢献できる。

バングラディッシュのグラミン銀行のものが有名で、5人1組のグループに連帯保証で貸し付ける。貸付先の97%は女性で、毎週、お金の使い道や返済計画について個別にアドバイスが行われる。借りたお金を元に、家畜の飼育や竹細工の制作、食料品の販売などを営み、自らの手で生活水準を上げていくことで返済が可能になり、貧しい人たちも信頼できる借り手となる。回収率は98%。

# この頃の 「仕事・就職」 事情 ⑤ (番外編)

## 「シングルマザーの就職・転職」成功のコツ

今回はシングルマザーに特化した就職・転職サポートを運営する「はぴシェア」の秋田文子さんに“プロの目から見た”シングルマザーの就職・転職へのアドバイスをいただきました。

「はぴシェア」はシングルマザーの方のための就職転職支援サイトです。2008年9月のサービス開始以来、1600人の方にご登録いただいております。

私どものサービスは、大きくは二つあります。一つは、お仕事をお探しのシングルマザーの方々（これからという予備軍の方も）にお仕事の情報を提供し、実際に求人企業をご紹介させていただき、入社いただくこと。もう一つは、シングルマザーの採用を積極的に考えていただける求人企業の開拓をすることです。

そのような日々の業務を通して、見えてきた「就職・転職に成功するシングルマザーの方の特徴」と、「求人企業の本音」についてお話しさせていただきます。

### ■求人企業の本音

シングルマザーの採用について、人事の方にご提案する際、いつも「“人財”として、シングルマザーの方を、正直どう思いますか？」とお聞きしています。

ポジティブな意見としては……

- 「お子さんがいるので社会人として責任感がある」
- 「働く動機がしっかりあって、仕事に真剣」
- 「出産やご主人の転勤などでは退職しないだろう」
- 「子育て経験から対人対応力がある」
- 「頑張る女性というイメージが浮かぶ」

……などがあります。うれしいですね。

一方で、もちろんネガティブな意見もあります。

- 「お子さんを優先するから休みがち」
- 「後ろ向きな発言が多そう」
- 「シングルマザーであることを理由に自分に甘い」
- 「不幸そうな雰囲気が社内に影響する」

……こんなことを聞かされると、私も時にむきになって、それはシングルマザーであることとは関係ない！と反論してしまうこともあります。

でも、実は一番多い意見は……

「業務遂行のためのスキル・能力・経験があり、社風とマッチする人物であり、会社に貢献できる人材であれば、シングルマザーであること（または、ないこと）はまったく関係ありません」というものです。

この企業の本音を理解すると、自ずと就職・転職活動で求められる姿勢が見えてきます。つまり、「自分のできること」でいかに「企業に貢献できるか」。そして、人物としては「育児で身に付けた対応力」や、「仕事への真剣さ」をアピールしていくことが重要ですね。

### ■就職・転職に成功するシングルマザーの方の特徴

もちろん、スキルや能力・経験がマッチしていて、人物面でも問題がなければ、採用のチャンスは高くなるの

## 弁護士二一〇番

《回答者》 弁護士 松山 理香

TEL 06-6130-5610

### 調停に臨むにはどうしたらいいか

**Q**

結婚して10年、8歳の息子がいます。昨年7月に夫が突然家を出て、離婚したいから条件を考えておいてと言われました。

夫はとにかく遊び好きで、休日の度にパチンコ、麻雀、ドライブと遊びがたく、家のことは一切しません。暴力や暴言もありました。女性もいるかも知れません。

夫が調停を申し立て、1回目に行ったら、調停委員が夫の主張を鵜呑みにして高圧的な厳しい口調で怖い思いをしました。夫の言うた離婚理由にも納得できません。生活費は夫と月8万円と決め、先月は振り込まれましたが、今月振り込まれるか不安です。

このままでは次の調停で離婚が決まってしまうような気がします。次回に行くまでにどうしたらいいでしょうか。調停委員を変えることはできないでしょうか。条件についてはまだ考えていませんが、どんな準備をしたらいでしょうか。

**A**

突然のことです、戸惑われていることだと思います。

まず、最初に理解していただきたいことは、調停での離婚は、夫婦の双方が離婚することに合意をして初めて離婚が成立するということです。一方がどれだけ離婚をしたいと思っても、もう一方が離婚に合意しなければ

離婚は成立しません。次の調停で離婚が決まってしまうと、心配をされていますが、あなたが離婚することやその際の条件に納得し、合意をするのであれば、離婚が決まるということはありませんので安心をしておいてください。まずは離婚に際して、夫との結婚を続けたいのかをじっくり考える必要があると思います。

生活費については、もし、振り込まれなくなった場合は、婚姻費用（生活費）の分担請求の調停を申立てる方法があります。申立てる方法は裁判所にあります。申し立てると、今の離婚調停の日に、生活費の支払いについても話し合いをします。金額などでは合意できない場合は審判になり、双方の収入等を確認した上で、裁判官が金額を決めて支払うように命じる審判を出していただけます。それでも支払われない場合は、その審判で給与を差し押さえるなどして、生活費を確保することが可能です。

生活費をしっかりと確保して、離婚に際しての心配を軽減し、どのような条件で迎えるのかを、じっくり考えて下さい。調停委員の問題については、家庭裁判所の担当の書記官に、調停委員の問題点について伝えて、指導などをしてもらうように相談してみてください。



ですが、厳しい雇用環境が続くなかでは、同様のライバルもたくさんいるわけです。

そんな中で、「この人は決まるな」と直感する方々がいらっしゃると思います。それは、「自分で判断・決断する力」のある方です。場合によっては、スキルや能力・経験が劣っていても、ライバルを逆転して採用になることがあります。私は、シングルマザーの方以外にも、たくさんの女性の求職者の方と面談しますが、判断力・決断力については、総じてシングルマザーの方のほうが高いなと感じています。やはり、お子さんのことや、家のこと（もちろん離婚についても）、ご自身で判断・決断する機会が多く、自然と一家の大黒柱としての意識が高まるからではないでしょうか。中小企業の社長並といったら言い過ぎでしょうか。こういう方々は、やりたいこと・なりたい自分に近づくために、今の自分にできることがあるなら、それを仕事にしていこうと考えられる強さがあり、経験のない仕事にもチャレンジしていきます。

この記事をお読みの皆さまも、きっとこの力をお持ちだと思います。ぜひ自信をもって就職・転職活動での成功をつかんでいただきたいと思います。

\*「はぴシェア」：<http://www.hapishare.com/>

#### ●秋田文子さんプロフィール

1965年生まれ。'88年(株)リクルート入社。企業の人材採用のコンサルティング営業に従事。その後、ベンチャー企業で人事マネージャーを経験。'08年、シングルマザーを対象とした就労支援事業を開始、現在に至る。自身も大学・高校・中学生の3児を持つシングルマザーである。



これ  
向井さんの  
知つとこ。  
Vol.11

## 「在宅就業支援事業」を知っていますか？

厳しい雇用状況の中、皆さんも非正規雇用で悩んでいませんか？ 在宅で家事や子育てをしながら、夜中や休日などの空いた時間に仕事ができたらと思いませんか？

厚生労働省の母子家庭の就業支援策の中に、「在宅就業支援事業」があります。「安心子ども基金」は、保育所整備や学童保育等、子育て支援のために創設された基金ですが、2009年度第1次補正予算によって、安心子ども基金事業として、母子家庭等のために在宅就業の環境整備を行う自治体に国から助成が出るようになりました。

これは、自治体（委託も可）が、行政や企業から仕事を受注して、その仕事を母子家庭の母親に分配し、在宅で行わせる事業です。今年2月に、北海道や東京、熊本など、既に15の自治体に助成金が公布されています。

仕事の内容は、自治体により異なりますが、①Webサイト制作や更新、保守管理、②ネット販売の物販システム開発や運営支援、③企業の商品やサービス紹介のプロモーションビデオ、eラーニングコンテンツ制作、ソフトウェア開発、④データ入力や資料作成、テープ起こし、資料のデジタル化、⑤コールセンター事業などがあります。

事前に仕事のスキルを身につけるための研修が受けられ、訓練手当も少額ですが支給されます。また、訓練の後半の期間は、在宅就業をし、収入を得ながら訓練を受けることができます。チャレンジしてみませんか？

詳しくは、ハンド事務局までお問い合わせ下さい。

## ● もっと知ろう・使おう「公的支援サービス」 ●

### ～シングルマザーの子育てと仕事を両立する知恵～ ①

「はぴシェア」さんではメルマガで最新のお仕事情報の配信もされているそうですよ。公的支援サービスにも託児設備を備えているところなどあります。どんどん活用しましょう！ 地域によって実施内容が異なりますので、直接問合せみてくださいね。

[by 満木葉子]

\*

#### ■マザーズハローワーク

面接疑似体験や子育て中の女性のためのパソコン講習（初心者向け）など、再就職に役立つさまざまなセミナーを毎月無料で開催しています。

【問合せ】居住地区のマザーズハローワーク

※地域によってハローワーク内の「マザーズコーナー」「マザーズサロン」となっているところもあります。

#### ■母子家庭等就業・自立支援センター

母子家庭及び寡婦を対象とした自立促進講習会を無料で開催しています。

例）東京都母子寡婦福祉協議会：ワードエクセル初級・エクセルビジネス応用など

【問合せ】各地の母子家庭等就業・自立支援センター

#### ■「働く」についての情報サイト

①厚生労働省運営 再就職サポートサイト

<http://www.saisyuusyokusupport.jp/>

再就職にむけて確認すべきことや役立つ情報、成功事例など満載です。

②厚生労働省運営 携帯サイト「キャリモバ」

<http://carimoba.jp>

右を携帯電話のバーコードリーダーで読取ると、仕事探しや技能・知識習得、トラブル対応などの情報が見られます。



